

郵便省認可

明治二十二年十一月分



岡山縣報

第貳號

發行所

備作時事社

岡山縣備前國岡山市大字内山下六番邸

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



目次

縣令

- 第四拾九號 (學) 一丁表
- 第五拾號 (警) 二丁表

- 訓令甲
- 第六號 (収) 一丁表
 - 第七號 (會) 同
 - 第八號 (會) 二丁裏

訓令乙

- 告示
- 第二百拾四號 (農) 一丁表
 - 第二百拾五號 (庶) 同
 - 第二百拾六號 (議) 二丁表
 - 第二百拾七號 (學) 同
 - 第二百拾八號 (農) 同
 - 第二百拾九號 (議) 同
 - 第二百三十一號 (収) 二丁裏
 - 第二百三十二號 (警) 同
 - 第二百三十三號 (衛) 同
 - 第二百三十四號 (農) 三丁表
 - 第二百三十五號 (兵) 三丁裏
 - 第二百三十六號 (庶) 同
 - 第二百三十七號 (衛) 四丁表

- 第六號 (庶) 一丁表
- 第七號 (議) 同
- 第八號 (議) 同
- 第九號 (庶) 一丁裏
- 第十號 (庶) 同
- 第十一號 (庶) 同
- 第十二號 (庶) 同
- 第十三號 (庶) 同
- 第十四號 (庶) 二丁裏
- 第十五號 (兵) 三丁裏
- 第十六號 (兵) 同

● 岡山縣令第四拾九號

明治二十年四月 縣令第貳拾七号中左之通改正追加ス

明治二十二年十一月十五日

岡山縣知事 千坂高雅

本縣常備師範學校規則第一章第二條改正

本校ニ於テ男生徒ニ授ケル學科ハ倫理、教育、國語、漢文、英語、數學、簿記、地理、歴史、博物、物理、化學、農業、手工、習字、圖書、音樂、體操、トス

女生徒ニ授ケル學科ハ倫理、教育、國語、數學、地理、歴史、理科、家事、習字、圖書、音樂、體操、トス

全章第三條改正

修業年限ヲ男子四箇年女子三箇年トス

全第二章第一條學科課程表々々目師範學校ノ下ニ男生徒ノ三字ヲ挿入シ且ツ家事、音樂、體操等〇點ヲ附セシ諸項ヲ刪除シ該表ノ次ニ女生徒ニ科又ヘキ學科課程表ヲ附ス

全章第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第九條生徒中不都合ノ行爲アルヲ以テ退學ヲ命ズ者アルハ在學中給與シタル學費ヲ償還セシム

全第四章第十一條但書第四學年ヲ最終學年ニ改ム

全章第十四條改正

男生徒ハ第一第二第三學年試驗ヲ完セシトキ女生徒ハ第一第二學年試驗ヲ完セシトキハ每次修業證書ヲ與ヘ最終學年試驗ヲ完セシトキハ卒業證書ヲ與ヘシ

倫理	一人倫道德ノ要旨	第一	第二	第三
	數時週毎	第一	第二	第三
	數時週毎	第一	第二	第三

○ 縣令

習字 圖書	家事 作法育兒 關スル事	理科 物理化學	地理 歷史	數 學	國 語	教 育
二圖書 自在書	一衣食住ニ 關スル事 衣服取扱法食物調理法 室内ノ衛生病者ノ看護 住所ノ整備	一動物ノ概略 二植物ノ概略	一歷史 日本歷史 二地理 總論日本地誌	一珠算 加減乘除 四則雜 二(運籌) 命位記數四則分數 三筆算小數	一日本文法 文學ノ要略 二作文	一總論 智育 二德育
三習字 楷行草	一日常作法 二幼兒ノ保護及保育法	一物理 總論力學 音響學 二熱學 光學	一地理 外國地誌 二歷史 外國歷史 三礦物ノ概略 四生理 人身生理及衛生 五上ノ事項	一筆算 比例利息算 二自乘法 開平開立求 三積法	一教授ノ原理及教授法 二全上	一德 二保 三育
三全上	一裁縫 小裁 中裁 木裁 衣服	一物理 化學 二無機化學 三有機化學	一歷史 地理 二全上ノ續	一筆算 雜題 二幾何 幾何ノ 三幾何 大體	一四 二全 三上	一四 二本 三校 四法 五理 六法 七育
三全上	二家計簿記	一物理 電氣學 二化學 無機化學 三有機化學	一歷史 地理 二全上ノ續	一筆算 雜題 二幾何 幾何ノ 三幾何 大體	一四 二全 三上	一四 二本 三校 四法 五理 六法 七育
三全上	二家計簿記	一物理 電氣學 二化學 無機化學 三有機化學	一歷史 地理 二全上ノ續	一筆算 雜題 二幾何 幾何ノ 三幾何 大體	一四 二全 三上	一四 二本 三校 四法 五理 六法 七育

●岡山縣令第五拾號
 何人タリトモ格魯兒酸加溜謨 (モソツンガレム) 塩素酸加溜謨又換酸加里ヲ賣買授受スルキハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署又ハ分署ニ出認可ヲ受テシ但シ警察官ハ臨時其現品ヲ検査スコトアルヘシ
 前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタル者ハ本縣違警罪トシ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
 明治二十二年十一月十六日
 岡山縣知事 千坂高雅

格魯兒酸加溜謨 書式(用紙半紙)
 右ハ(醫業)(工職用等何々)必要ニ付前書ノ斤量(賣買)(授受)致度御認可被成下度候也
 本籍何府何市何町何郡何村何大字何々何番何族籍
 現住所何府何市何町何郡何村何大字何々何番何
 (買主)(受主) 氏 名實印

○縣令

何府市何町大字何々何番邸族籍
 何縣何郡何村
 年 月 日
 警察署長又ハ分署長宛
 (賣主)(授主) 氏 名實印
 年 齡

●岡山縣告示第百貳拾四號

鳥根縣ニ於テ水産保護ノ爲メ漁業取締規則ヲ設ケ左記ノ通令達セシ旨通知アリ

明治二十二年十一月二日

岡山縣知事千坂高雅

漁業取締規則

第一條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ縣内外人ヲ問ハズ組合外ニ從來ノ慣行特約ニ依リ漁業採介採
 不トキ其地組合規約ニ遵フシ

第二條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ遊樂若クハ自用ノ爲漁介漢ヲ採取スルハ其地組合規約ニ定メタル
 制限禁止ノ事項ヲ遵守スヘシ

第三條 第一條第二條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●岡山縣告示第百貳拾五號
 本年十月司法省告示第十号ヲ以治安裁判所出張所裁判開廷場所管轄區域及日期日被定候ニ付テ
 ハ左之通岡山始審裁判所ヨリ申越候ニ付此旨心得ヘシ

明治廿二年十一月二日

岡山縣知事千坂高雅

岡山始審裁判所管内治安裁判所出張所裁判開廷場所管轄區域及開廷期日并心得書

開廷場所	管轄區域	開廷期日
玉島治安裁判所西江原出張所管内一圓	玉島治安裁判所西江原出張所管内一圓	自三全月 至三全月 十七日
高梁治安裁判所新見出張所管内一圓	高梁治安裁判所新見出張所管内一圓	自三全月 至三全月 十七日
高梁治安裁判所新見出張所管内一圓	高梁治安裁判所新見出張所管内一圓	自六全月 至六全月 十七日
高梁治安裁判所新見出張所管内一圓	高梁治安裁判所新見出張所管内一圓	自七全月 至七全月 十七日
高梁治安裁判所新見出張所管内一圓	高梁治安裁判所新見出張所管内一圓	自八全月 至八全月 十七日

○告示

津山治安裁判所高田出張所	津山治安裁判所高田出張所 内一圓	至自	全三	月	月	廿十	廿十	五	五	日	日
津山治安裁判所高田出張所	津山治安裁判所高田出張所 内一圓	至自	全六	月	月	廿十	廿十	五	五	日	日
津山治安裁判所高田出張所	津山治安裁判所高田出張所 内一圓	至自	全九	月	月	廿十	廿十	五	五	日	日
津山治安裁判所高田出張所	津山治安裁判所高田出張所 内一圓	至自	全十一	月	月	廿十	廿十	五	五	日	日
津山治安裁判所高田出張所	津山治安裁判所高田出張所 内一圓	至自	全十二	月	月	廿十	廿十	五	五	日	日
津山治安裁判所高田出張所	津山治安裁判所高田出張所 内一圓	至自	全十五	月	月	廿十	廿十	五	五	日	日
津山治安裁判所高田出張所	津山治安裁判所高田出張所 内一圓	至自	全十七	月	月	廿十	廿十	五	五	日	日
津山治安裁判所高田出張所	津山治安裁判所高田出張所 内一圓	至自	全十八	月	月	廿十	廿十	五	五	日	日
津山治安裁判所高田出張所	津山治安裁判所高田出張所 内一圓	至自	全十九	月	月	廿十	廿十	五	五	日	日
津山治安裁判所高田出張所	津山治安裁判所高田出張所 内一圓	至自	全二十	月	月	廿十	廿十	五	五	日	日

一 本年五月二十日勅令第六十七号治安裁判所出張所裁判規程ニ依リ民事訴訟及ヒ勸解事件ヲ提出セトスル者ハ可成原被同道ニテ出頭スヘシ

一 原被同道ニテ出頭シ難キ者ハ開庭日敷限ア三付開庭前訴狀若ハ呼出狀送達及ヒ出廷シ得ヘキ稱豫ヲ見込ミ訴訟勸解其提出スヘシ

一 訴答ハ書面ニ作ラヌ口頭ニテ爲ストヲ得

一 口頭ニテ訴答ヲ爲ス者ハ名刺ニ其住所氏名外請求若シハ答辨等ノ名稱ヲ記シ之レニ成規ノ印紙

貼用スシ

一 民事訴訟ハ一應勸解ヲ經ルト否トハ自由々スシ

● 岡山縣告示第百貳拾六號
東北條郡選舉本縣々會議員壹名欠員シニ付本年十二月十日午前第九時右補欠選舉會ヲ開キ同日午后第三時投票函ヲ閉鎖ス

明治廿二年十一月七日
岡山縣知事千坂高雅

備中國小田郡美山村大字
三山五拾七番邸住
平民
川合省吾
明治元年五月生

右之者本縣尋常師範學校在學中不都合ノ行爲有之退校ヲ命セシ依リ自今管内官縣立學校及ヒ公立私立ノ學校へ入學ヲ禁止ス

明治廿二年十一月八日
岡山縣知事千坂高雅

● 岡山縣告示第百貳拾八號
兵庫縣下揖西郡布施村ノ内十畑村ニ於テ牝牛壹頭客月廿六日炭疽熱ニ罹リ即日斃死ノ旨通知アリ

明治廿二年十一月八日
岡山縣知事千坂高雅

● 岡山縣告示第百貳拾九號
本年通常縣會本月二十日岡山市古京町後樂園飯議場ニ於テ開會ス

明治二十二年十一月十三日
岡山縣知事千坂高雅

○告示

岡山市選出本縣々會議員補欠選舉之候處岡山市弓之町百三十番邸居住中山寬當選又
明治二十二年十一月二十二日
岡山縣知事千坂高雅

●岡山縣告示第百三拾壹號

明治十九年十一月十一日 岡山縣告示第四十九號中第七區租稅檢査員派出所及本年六月告示第五十二號中收稅部久世出張所來十二月一日ヨリ左ノ所へ移轉ス

明治二十二年十一月二十二日

岡山縣知事千坂高雅

岡山縣收稅部久世出張所第七區租稅檢査員派出所

大庭郡久世村大字久世三百四番邸

●岡山縣告示第百三拾貳號

第四期岡山重罪裁判所本月廿二日開廳之旨其筋ヨリ通知アリタリ

明治廿二年十一月廿六日

岡山縣知事千坂高雅

●岡山縣告示第百三十三號

目下岡山市中ニ於テ腸室扶私患者發生既ニ四十余名ノ多キニ達シ之レニ伴テ發生シ該病類似ノ熱性患者數十名ノ届出アリ右ハ固ヨリ腸室扶私病同様ノ取扱ヲ爲スヘキアラサレモ其實際ニ於テハ歴々傳染ノ兆候アルヲ以テ該熱性病ニ對ス豫防消毒ノ概略ヲ左ニ指示スルニ付充分此方法ヲ實行スシ

明治廿二年十一月二十七日

岡山縣知事千坂高雅

腸室扶私病類似ノ熱性患者ニ對ス豫防消毒ノ概略

第一 廁窟、井溜、溝渠、下水等ヲ掃除ヲ決シテ忽スヘカラス

第二 消化シ易キ物ヲ食シ清淨ナル水ヲ飲ムヘシ若シ通常ノ井水河水ヲ飲ムトキ必ズ之ヲ濾過シ煮沸シテ用スシ常ニ注意シテ胃寒疲勞等ヲ戒ムヘシ

第三 目下流行ス患者又ハ該患者ニ接シタル人ニ近接セサル様注意スシ

第四 一家ニ數人此病ニ罹ル者アルトキニ相當看病人ヲ附ケ其他ノ家ニ可成他家ニ避クヘシ

第五 該患者治癒ノ後始メテ他人ト交通ストキ又ハ該患者ノ看護ヲ爲シタル者、他人ト交通ストキハ沐浴換衣スヘシ

第六 該病ニテ死亡ス者ノ屍體ハ腸室扶私病ニテ死亡セシモノ同様ノ取扱ヲ爲スヲ要ス

第七 該患者ノ糞尿ニ其十分一ノ石灰乳ヲ投シ充分ニ攪拌シタル後ハ之ヲ尋常ノ糞尿同様ニ取扱フモ妨ケナシ

但石灰乳ノ製法及使用方法ニ注意スヘシ

第八 衣服臥具等ノ糞尿ニ汚染セシモノ并該患者ニ使用シタル衣類ハ煮沸シテ後石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第九 該患者ノ糞尿其他該患者ノ爲メニ汚染セシ物品ヲ誤テ溝渠ニ混入セシトキハ「コロル石灰」ヲ撒布シ水ヲ以テ疏通スヘシ

第十 若シ石灰乳ヲ使用セルトキハ惣テ腸室扶私ノ消毒ニ使用スル石炭酸水ヲ使用スヘシ

附錄

石灰乳製法

一生石灰一分ヲ水二十分ニ混和シ能ク攪拌スヘシ例令ハ生石灰目方百目ニ水目方二貫目(四斗)ニ混和スル割合ナリ

但生石灰ハ貝灰ニテモ石灰ニテモ水少シ計ヲ投シ之ヲ試ムニ忽チ水蒸氣ヲ發シ一種ノ聲ヲ放ツ程ノ手ニ非サレハ用ユカラス

又石灰乳ヲ用ユルニ其有毒物ト能ク混和セサレバ功用ナキヲシテ粗畧ノ使用ヲ爲シ却テ其害ヲ招クトキニアラサレハ之ヲ使用スル際深ク注意シテ丁寧ニ攪拌スヘシ

●岡山縣告示第百三拾四號

獸醫學獎勵ノ爲メ岡山市大字東中山下私立獸醫學會へ委嘱シ同會場内ニ於テ來ル三十日ヨリ十一月一日マテ馬体解剖施術セシムルニ付獸醫ニシテ望者ハ同場へ參觀スシ

○告示

三

明治二十二年十一月二十八日

岡山縣知事千阪高雅

●岡山縣告示第百三拾五號

附籍者ニシテ徵兵適齡ノトキハ戸主ト家族ヲ問ハズ戸主ヨリ家族ノミ他ヘ附籍ノ場合ニ在テハ本籍戸主ヨリ徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ差出サシメ本籍ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應ジシム可シ

明治二十二年十一月二十八日

岡山縣知事千阪高雅

●岡山縣告示第百三拾六號

陸軍省所轄左記ノ地所今般公賣相成候旨其筋ヨリ照會アリタルニ依リ拂受望ノ者ハ地元郡役所又ハ村役場ヘ出頭入札心得書熟覽ノ上來ル十二月十九日限り大坂陸軍陣營經理部ヘ直ニ入札差出スシ

岡山縣知事千阪高雅

明治二十二年十一月三十日

兒島郡下津井村大字下津井

乙六百七拾貳番字祇園下

一地積六百八拾五坪七合六夕

舊 砲 臺

全郡全村大字全上

乙百七拾三番字西脇新開

一地積千五百七拾八坪四合零夕

全 上

全郡長濱村大字田ノ浦

乙拾五番字谷

乙拾七番字明神ノ西

一地積千四百六十七坪三合七夕

全 上

全郡大門村大字小串

乙三百七拾番字城山

一地積五千五百八拾壹坪五合八夕

全 上

上道郡高島村大字賞田

乙二百四番字城山

一地積三千貳百四拾壹坪六夕

舊 火 藥 庫 地

邑久郡幸島村大字西幸西

自乙貳百五拾六番

至乙貳百五拾九番 字外波

一地積千六百拾九坪九合六夕

舊 砲 臺

●岡山縣告示第百三拾七號

目今岡山市及近接村落ニ於テ腸室扶私病流行スニ付來ル十二月一日ヨリ上道郡三擢村大字網濱

避病院ヲ開ク

岡山縣知事千阪高雅

明治二十二年十一月三十日

明治二十二年十一月二十日

鐵道調子開

岡山縣告示第百三十四号

●岡山縣告示第百三十四号

一、鐵道千六百廿七號

二、鐵道千六百廿八號

三、鐵道千六百廿九號

四、鐵道千六百三十號

五、鐵道千六百三十一號

六、鐵道千六百三十二號

岡山縣知事千坂高雅

郡役所

岡山縣知事千坂高雅

●訓令甲第六號

郡役所

本年六月當縣訓令第三十八号ヲ以テ賣藥營業鑑札下付取扱方相違置候處自今該鑑札睡廳ヨリ下付ノ節ハ收稅部出張所ヲ經町村長へ回付シ町村長ヲシテ本人へ下付セシメ廢業届書ハ郡役所ヨリ該出張所へ回付シ該出張所ニ於テ賣藥營業稅臺帳刪除ノ上睡廳へ進達セシム

但收稅部出張所ヨリ町村長へ鑑札下付ノ節ハ同時ニ郡役所へ通知セシム

岡山縣知事千坂高雅

●訓令甲第七號

郡役所

内務省所管物品出納規程別冊ノ通制定セラレ

岡山縣知事千坂高雅

明治二十二年十一月五日

内務省及所管廳物品出納規程

第一章 總 則

第一條 本規程ニ物品ト稱スルハ物品會計規則第一條ニ定ム諸品ヲ總稱シ分テ備品消耗品ノ二種トシ備品消耗品ノ區別ハ從前ノ例ニ據ル但動物又ハ特ニ使用ノ目的アル物品(何々器械農具工具ノ類)ハ其區分ニ據ル

第二條 本規程ニ部局長ト稱スルハ總務局長臨時建築局總裁警視總監府縣知事土木局長集治監假留監典獄ヲ云フ

第三條 物品出納ノ命令ハ之ヲ部局長へ委任ス但府縣島廳ニ於テハ知事ノ代理トシテ島司物品出納ノ命令ヲ發スコトヲ得

第四條 本省ニ於テハ會計局長及土木局計算課長集治監假留監會計課長建築局ニ於テハ會計部長警視廳ニ於テハ會計局長府縣ニ於テハ第二部長ヲ以テ物品會計官吏トス但代理官ヲ置クノ必要アルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○訓令甲

第五條 物品會計規則第十一條第十二條ノ檢査ノ官吏及第十五條第二項但書ノ官吏ハ部局長之ヲ命スルヲ得

第二章 物品出納 帳簿

第六條 部局長ハ該廳必需ノ物品中備品ハ其品種品目若シハ定數保存年限價額ヲ消耗品ハ其品種品目ヲ豫メ規定シ置キ其規定内ノ物品ニシテ金額五百圓未滿ノ者ハ物品會計官吏ヲシテ直チニ購入セシムルヲ得但購入ノ方法ハ會計法及會計規則ニ依ル

第七條 前條規定内ノ物品ハ物品會計官吏ヲシテ直チニ出納セシムルヲ得

第八條 前二條ノ制限外ノ物品ハ部局長ノ命令アルニテ購入及出納スルヲ得

第九條 物品會計官吏ハ購入其他ノ事由ヨリ物品ヲ接受シタルトキハ之ヲ憑証書類ニ照シ調査納入ス

第十條 凡ソ支部局ヨリ物品ヲ請求スルトキハ該支部局物品取扱主任者ハ其支部局長ノ檢印ヲ受タル請求書ヲ物品會計官吏ヘ差出ス

第十一條 前條ノ物品ヲ交付スルトキ共用ニ係ルモノハ該支部局物品取扱主任官各自ノ使用ニ係ルモノハ各自ノ憑証ヲ徴ス

第十二條 消耗品ノ内共用ニ屬スル薪炭油ノ如キ日々支消スル物品ハ一週乃至二週間ノ需用概算高ヲ以テ假渡ヲ爲スルヲ得

第十三條 支部局ニ於テ使用ノ物品不用ニ屬スルトキハ其返納書ヲ添ヘ速ニ還納ス

第十四條 支部局ニ於テ使用ノ物品修繕其他ノ事故ヨリ引換等ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細ニ返納書ヲ添ヘ之ヲ還納ス

第十五條 物品出納整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備置ス

備品出納簿

消耗品出納簿

何々出納簿

第十六條 前條ノ外備品内課簿消耗品内課簿假渡簿其他ノ補助簿ヲ設クル便宜ニ任ス

第十七條 凡ソ物品ノ出納授受ハ其時々帳簿ニ登記ス

第三章 保管 責任

第十八條 凡ソ貯藏ノ物品ハ物品會計官吏支部局ノ共用ニ係ル物品ハ該部局物品取扱主任各自使用ノ物品ハ各自ノヲ保管ス

第十九條 物品會計官吏ハ支部局ヘ交付シタル物品ト雖モ収縮上ニ關シテハ總テ監督ノ任アルトス

第二十條 凡ソ貯藏ノ物品ハ品種數量ヲ明瞭ニシ倉庫ニ格護ス

第二十一條 本規程第十八條ノ保管ノ責アル官吏其物品ヲ故意若クハ怠惰ニ由リシ失毀損シタルトキハ之ニ對スル相當ノ代價ヲ辨償セシム

第二十二條 直接ニ保管ノ責ナキ官吏ト雖トモ故意若クハ怠惰ヨリ物品ヲシ失毀損シタルトキハ仍前條ニ依ル

第二十三條 物品會計官吏ノ身元保證金ノ納附及損失品辨償ノ填還納等ハ會計規則第二百二條乃至第一百十條ニ據リ處分シ其保證金額ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 報告書 計算書

第二十四條 物品會計規則第十四條ノ報告書ハ別紙様式ニ由リ年度後四ヶ月以内ニ調製シ内務大臣ニ呈出ス

第二十五條 物品會計規則第十五條ノ計算書ハ會計檢査院ニ於テ定メタル様式ニ由リ年度後三ヶ月以内ニ調製シ憑証書類ヲ添ヘ内務大臣ニ差出ス

第二十六條 物品會計規則第二十五條第二項ノ計算書ハ事故ヲ生シタルトキヨリ一ヶ月以内ニ差出ス

第五章 不用品賣却

第二十七條 不用ニ屬スル物品及毀損シテ修補ヲ加ヘ難キ物品ニシテ見積リ價格金貳百圓以内ノモノハ物品會計官吏會計規則第七章ニ準據シテ之ヲ賣却シ其價格金貳百圓以上ノモノハ部局長ノ裁定ヲ請フシ

第六章 雜則

第二十八條 遠隔ノ地ニアル支部局若クハ生産ニ係ル物品ニシテ本規程ニ準據シ難キモノアルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ特別規程ヲ設クルコトヲ得

第二十九條 物品出納ノ順序ハ各廳ニ於テ制定シ内務大臣ノ認可ヲ得ヘシ

第三十條 本規程ノ施行ハ物品會計規則施行ノ期日ニ依ル

(物品出納報告書様式ハ略ス)

訓令甲第八號

郡役所

内務省所管ニ屬スル本廳物品出納順序別冊之通相定ム但別表及様式ハ別ニ頒ツ

明治二十二年十一月八日

岡山縣知事千坂高雅

物品出納順序

第一章 總則

第一條 此順序ハ會計課ニ於ケル物品ノ出納并ニ會計課ト各部課トノ間ニ於ケル物品ノ授受及保管ノ方法ヲ定ムルモノトス

第二條 此順序ニ於テ各部課ト稱スルハ知事官房及第一部第二部各課又ハ特ニ委任セル各廳衙ヲ云フ

第三條 前條特ニ委任セル廳衙トハ設例ハ犯罪規則等ニ係ル沒收品又ハ旅管徵兵署及大隊隊徵兵署

ニ屬スル諸物品ヲ部役所ニ於テ保管セシムル如キ又ハ警察官吏拾得品其他ノ官沒ニ歸シタルモノヲ各警察署ニ於テ保管スルモノ、如キヲ云フ

第二章 物品出納

第四條 凡ソ物品ヲ購入セントストキハ物品出納規程第六條ニ依リ之ヲ執行スヘシ

第五條 常用物品ノ椅子卓ノ類若クハ用紙薪炭油ノ如キ日々需用スルモノハ一年度ノ需用高ヲ概算シ時期ヲ見計ヒ二三回購入貯藏シ置クコトヲ得其他ハ使用ノ時々購入スルモノトス

第六條 前二條物品ノ購入又ハ生産シタル時及還納等ノ場合ニ於テ之ヲ証憑ニ照合シ受領スヘシ

第七條 備品ノ供給ハ左ノ二表ニ登載スル所ノ定數及品種ヲ以テ定限トス但現在品中表定ノ品種ニ投

合セサルモノアルトキハ便宜ニ依代品トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

一 備品類別表

一 備品定數内譯表

第八條 特殊ノ事業ニ關シ前條制限外ニ係ル物品ノ必須缺ク可カラサルモノアルトキハ物品會計官吏費額

處辨ノ方法ヲ具シ知事ノ裁可ヲ請フヘシ

第九條 消耗品ノ供給ハ事務ノ狀況ニ伴ヒ増減ヲ査定シテ供給スヘシ

第十條 各部課ヨリ物品ノ請求アルトキハ其需用ノ當否ヲ調査シ相當ト認ル者ニシテ物品出納規程第

六條ニ定メタル範圍内ノ者ハ物品會計官吏ノ檢印範圍外ニ係ルモノハ知事ノ裁可ヲ得テ之ヲ交付スヘシ

第十一條 郵便電信切手及薪炭油ノ類假渡ヲナストキハ前回渡品ノ殘額ヲ調査シ相當ト認ルモノハ前

條ニ準シ渡方ヲナスヘシ

第十二條 前條假渡ノ物品ニ對スル決算書ハ之ヲ精査シ物品會計官吏ノ檢閱ヲ經ヘシ

第十三條 各部課ニ於テ備品類ヲ請求セントストキハ物品取扱主任ハ品質數量及需用ノ事由ヲ詳記

シ會計課ヘ送付シ之ヲ受取りタルトキハ共用ト専用トヲ區別シ保管又ハ各自ヘ交附等ノ手續ヲナスヘシ

前項物品受入又ハ返還ノトキ物品取扱主任ハ其品目毎ニ受領證書若クハ返納書ヲ製シ又ハ之ヲ徵收

シテ會計課ヘ送付スヘシ

第十四條 各部課ニ於テ物品ノ亡失毀損又ハ不足ヲ生ズトキハ專用品ハ各自ヨリ其用品ハ物品取扱主任ヨリ其事由ヲ詳記シ証明書ヲ製シ會計課ヘ送付シ其引換補足ヲ要スルハ同時ニ其請求書ヲ差出スヘシ

第十五條 各部課ニ於テ常用ノ消耗品ヲ請求セトスルキハ使用ノ目的ヲ摘記シ物品取扱主任ハ毎月一日十一日二十一日(休日ヲハ順)ノ三回ニ會計課ヘ請求シ之ヲ受取リタルキハ各自ヘ交付シ受領證書(需用者數人アルトキハ毎品)ヲ徴シ該課ヘ送付スルコトス

但臨時ノ必用ニ出ルモノハ本條ノ期日ニ依ラス

第十六條 消耗品ノ内生産ノ必要アルトキハ其品質數量ヲ詳記シ物品會計官吏ノ檢印ヲ受テ之ヲ生産者ニ交付スルコトヲ得

前項生産ノ爲メ消費ノ物品ニ對シテハ其事由ヲ摘記シタル領收證書ヲ徴スヘシ

第十七條 各部課ニ於テ不用ニ屬シタル備品消耗品(轉任ノ爲メハ旅行攜帶ノ用紙等受取タルモノ、内剩餘又ハ不用ニ歸シタルモノ、如キ)ハ直ニ會計課ニ納付スヘシ

第十八條 前條ニ對ス返納書類ハ毎月取纏物品會計官吏ノ檢閱ヲ經ヘシ

第十九條 各部課ニ於テ受入タル物品ハ之ヲ他課ヘ貸與スルコトヲ得ス

第二十條 前各條ノ請求書受領證書及返納書決算書證明書ニ總テ當該部長若クハ其代理官ノ檢印ヲ受テヘシ

第二十一條 各部課ヨリ物品ヲ會計課ヘ返還シタルトキハ受領證書ヲ交付スヘシ

第二十二條 犯罪犯則等ノ爲メ官沒ノ物品ニシテ所轄法術等ヨリ本廳又ハ郡役所ニ引繼アリタルトキ該郡役所ニ於テ之ヲ調査納入シ其品質數量見積價格引繼廳名事由ヲ詳記シ参照書類ヲ添付シ直ニ會計課ヘ通報スヘシ

第二十三條 警察官吏拾得品其他一定ノ期限ヲ經過シ官沒ニ歸シタルモノハ前條ニ準據シ各警察署ヨリ會計課ヘ通報スヘシ

第二十四條 會計課ニ於テ前兩條ノ通報ヲ得タルトキハ會計官吏ノ檢閱ヲ經テ受理ノ手續ヲスヘシ

第二十五條 前各條ニ掲ケル請求書受領證書返納書決算書等ハ別紙ノ様式ニ依ル

第二十六條 物品ノ出納ヲ整理スル爲メ左ノ各條ノ帳簿ヲ設ケ其時々詳細登記スヘシ

第二十七條 會計課ニ於テ設ケヘキ帳簿ハ左ノ如シ

一 備品出納簿

一 消耗品出納簿

一 官沒品出納簿

一 木盃出納簿

一 前項ノ外左ノ補助簿ヲ設ケヘシ

一 備品渡高内譯簿

一 修繕品出納簿

第二十八條 各部課ニ於テ左記ノ帳簿ヲ設ケ本廳各部課ニ於ケル取扱主任ハ每三ヶ月末日郡役所

警察署ニ於ケル取扱主任ハ毎年度末一回物品會計官吏ノ點檢ヲ受テヘシ

一 備品現在簿

一 備品内譯簿

一 官沒品書留簿

一 郵便電信切手受拂簿

第二十九條 前兩條帳簿ハ別紙ノ様式ニ依ル

第三十條 前各條ノ外補助簿ヲ要スルモノアルトキハ便宜之ヲ設ケルコトヲ得

第三十一條 各部課ニ於テハ物品取扱主任貳名ヲ定メ該部課ニ係ル物品出納一切ノ責ニ任セシム

第三十二條 各部課ニ於テ前條主任ヲ定メタルトキ若クハ變更シタルトキハ其都度該官氏名又ハ物品書

類等引繼ノ頗末ヲ會計課へ通報スシ

第三十三條 物品ヲ亡失毀損シタル爲メ第十四條ニ依リ差出シタル證明書ハ毎月取纏物品會計官吏ノ檢査ヲ經テ知事ノ檢閲ニ供シ若シ故意怠惰ニ係ルキト認ムルキハ其時々知事ノ裁可ヲ請フヘシ

第三十四條 貯藏ノ物品ハ銷鑰アル倉庫へ納入シ毎品ニ區畫配置シ點檢ニ便ナラシムヘシ

第三十五條 前條ノ倉庫ハ物品會計官吏若シ物品會計官吏委任シタル官吏ノ臨場アルニテラサレハ開閉スルヲ得ス其鎖鑰ノ鍵ハ物品會計官吏便宜之ヲ保管ス

第五章 不用品賣却

第三十六條 不用品又ハ毀損品ニシテ修補ヲ加ヘ難キキ并官沒品ハ倉庫中別所ニ藏置シ毎年度二回乃至五回ニ檢査掛員立會ノ上其品質數量賣却見積代價ヲ取調物品出納規程第二十七條ニ據リ賣却ノ手續ヲ支ヘシ

但郡役所又ハ警察署ニ於テハ其時々執行セシムルヲトス

第三十七條 前條賣却ノ手續結了シ物品ヲ拂受人へ交付シタルトキハ出目毎ニ受領証書ヲ徴スヘシ

第六章 報告書 計算書

第三十八條 物品出納規程第二十四條第二十五條ノ報告書計算書ハ期限内ニ調製シ内務省へ送付按ト共ニ知事ニ呈シ知事ハ檢査官吏ヲ命シ之ヲ調ハセンタル後之ヲ裁可シ内務省へ送付ノ手續ヲナスルヲトス

第三十九條 前條計算書ニ添付スヘキ証憑書類ハ毎月品種毎ニ區分假綴シ年度經過後之ヲ合綴スヘシ

第七章 雜例

第四十條 前第七條備品定數内譯表ニ登記ノ物品ハ其定限内ニ於テ現員又ハ現況ニ據リ之ヲ減スルコトヲ得
第四十一條 旅行用柳行李「カバン」ハ必用ノ時々會計課ヨリ貸與ス之ヲ請求セ下ストキハ其携帶スル書類物件ノ量日等會計課ノ査定ヲ受ラヘシ其出張先ニ於テ書類物件ノ増加ニ依リ購入シタルモノハ返還トキ其分量等ヲ査定ス

第四十二條 太順序ノ施行ハ二十二年九月内務省訓令第三十六号出納規程施行ノ期日ニ依ル

訓令乙第六号

郡市役所、町村役場

恤救規則ニ據リ救助ヲ受ケタルモノニシテ拘留ニ處セラレタル者及犯罪嫌疑ニテ拘留セラレ取調ノ末無罪放免セラレタル者又ハ換刑處分ニ依リ輕禁錮ニ處セラレタル者并ニ輕罪重罪ノ實決ニ處セラレタル者所轄警察署又ハ分署ヨリ通知アリタルトキハ於市町村長其都度拘留日數又ハ刑名刑期共可届出且將來救助許可ノ指令ヲ受タルモノハ其人年齢等直ニ所轄警察署又ハ分署へ通報スシ

但輕罪重罪ノ處斷ヲ受ケシモノハ一旦救助ヲ廢止シ拘留又ハ換刑輕禁錮ニ處セラレタルモノハ其時日間ハ救助ヲ停止セラレ儀ト心得ヘシ且此際從來被救助者ノ姓名年齢共所轄警察署又ハ分署へ通報スヘシ

明治廿二年十一月六日

岡山縣知事 千坂 高雅

訓令乙第七號

郡市役所、町村役場

衆議院議員選舉費ハ選舉ニ關スル費用ニ限リ地方稅ヲ以テ支辨シ其他該事務取扱ニ要スル費用ハ市制第七十四條町村制第六十九條ニ據リ所屬市町村費ヲ以テ支辨スヘキニ就テハ投票用紙料投票函製造費名簿調製費法第十八條及第廿一條ノ選舉明細書費等ノ如キハ地方稅支辨ニ屬シ投票所費同所及選舉會場ニ要スル薪炭茶費等ヲ云フ筆紙墨料投票函送致費等ノ如キハ市町村費ヲ以テ支辨シ其地方稅支辨ニ屬スルモノハ當應ヨリ別途支出シ其市町村ノ負擔スヘキモノハ其役所役場ノ經費ヨリ支辨スヘシ但法第四拾四條投票函送致ノ場合ニ於テ立會人ノ附添ハ其義務ニ屬スルモノハ旅費ハ給與ノ限リアラス

明治廿二年十一月六日

岡山縣知事 千坂 高雅

訓令乙第八號

郡市役所、町村役場

市町村制施行以後ニ係ル市町村稅息納處分方ハ制第二百二條ニ依リ市町村長ニ於テ直チニ執行シ其取扱手續ハ明治十年十一月十七号公布ノ範圍内ニ於テ便宜相設ケ市町村會ノ議決ヲ經テ施行スシ

○訓令乙

明治二十二年十一月十一日

岡山縣知事千坂高雅

●訓令乙第九號

郡市役所、町村役場

市役所町村役場ノ位置ハ本年四月縣令第貳拾六号ヲ以テ指定シタル處自然實際ニ於テ將來不便ヲ感シ其位置變更ヲ必要ト認ル場合ニ於テハ郡長又ハ市町村長ニ於テ市町村會ノ意見ヲ聞キ其事實ヲ詳具シ市ハ市長町村ハ町村長及郡長ヨリ之ヲ稟申候様取扱フヘシ

明治二十二年十一月十二日

岡山縣知事千坂高雅

●訓令乙第拾號

郡市役所、町村役場

自今養育ノ棄兒滿十三年ニ至ル者或ハ養育中死亡又ハ官ノ養育ニ轉シタルアルキハ其都度該養育人ヨリ爲届出於郡市長ハ其養育中ノ穀代金(一箇年玄米七斗ノ割其地方三ヶ年平均下米相場)ヲ取調給與ノ儀上申スヘシ

明治二十二年十一月十九日

岡山縣知事千坂高雅

●訓令乙第拾壹號

郡役所、町村役場

諸嶺山試堀借區出願ノ際地主ノ連署ヲ要スヘキ例規ノ處右地主ニ於テ承諾ヲ拒ミ連印不致向モ往々有之哉ノ趣ニ候條右等ノ場合ニ於テハ地主ノ連印セザル由書ヲ添屬直ニ進達セシムヘシ且嶺山出願處分ノ進達ノ願人ノ利害ニ關係不少ニ付町村役場及郡役所ニ於テ進達方遲滯ヲ取扱候様其筋ヨリ照會、次第有之候條總テ遲延ヲササル様取計スヘシ

明治二十二年十一月十九日

岡山縣知事千坂高雅

●訓令乙第拾貳號

郡市役所、町村役場

民事訴訟及ヒ勸解等ニ付財産ノ差押又ハ公賣ノ節ハ市町村長ニ於テ立會スヘキ儀ト心得ヘシ
明治二十二年十一月廿日

岡山縣知事千坂高雅

●訓令乙第拾三號

郡市役所、町村役場

明治二十一年十一月十一日 當縣乙第四拾六号戶籍表別紙之通訂正ス
明治二十二年十一月二十五日

岡山縣知事千坂高雅

用紙海田以下諸表之ニ同シ

第一表

町村名	本籍		合計	現在戸數
	男	女		
再掲村				
合計				

第二表

町村名	本籍		合計	現在戸數
	男	女		
再掲村				
合計				

一 現住戸數ノ欄ニ本籍有者ト本籍ナラザル者ト又戸主タル者ト戸主タラサル者トヲ問ハズ渾テ其地ニ現住シテ一世帯ヲ爲ス電數ヲ記入スヘシ但官舎社寺學校病院製造所等ノ構内ニ居住ス宅別ニ一電ヲ入者亦一戸トシテ之ヲ記入スヘシ

一 再掲町村ノ欄ニ本籍人口一萬以上アル町村及本籍人ヲ本トシ第二表ノ出ヲ除キ入ヲ加テ現住人口凡一萬以上アル町村ノ本籍人並ニ現住戸數ヲ掲スヘシ

人口出入表 (明治何年十二月三十一日現在)

郡市(町村役場)名

第町村名	出				入				
	外國行	他府縣	他郡市	陸海軍在	囚人及	失	踪	他府縣	他郡市
合計									

○訓令乙

二

表
再掲
村町

- 一 外國行ノ欄ニ外國ニ行キタル者又他府縣出寄留ノ欄ニ他府縣ニ出テ住ス者又他郡市出寄留ノ欄ニ岡山縣内ノ他郡市ニ出テ住ス者ヲ記入スヘシ
- 一 陸海軍在營艦者ノ欄ニ歸休兵ヲ除キ現ニ陸海軍ノ屯營艦ニ在ル下士卒備夫馬丁ヲ出寄留者ト看做シテ記入スヘシ
- 一 囚人及懲治人ノ欄ニ囚人ハ檢事ヨリ通知シタル犯人ニシテ未タ刑期ヲ終ラサル者及ヒ懲治場ニ在ル者ヲ出寄留ト看做シテ記入スヘシ
- 一 失踪ノ欄ニ本年十二月三十一日調ノ戸籍ニ現ニ失踪ノ登記アル者ノ自數ヲ記入スヘシ
- 一 他府縣入寄留ノ欄ニ他府縣ヨリ本町村ニ來テ住ス者又他郡市ヨリ入寄留ノ欄ニ岡山縣内ノ他郡市ヨリ來テ住ス者ヲ記入スヘシ
- 一 再掲町村ハ前表ニ掲ケタル町村ヲ云但町村出入ノ調査ハ他府縣他郡市ノ出入寄留ヲ記載スルハ勿論同郡内ト雖モ其此町村ノ外ニ出テ住ス者ハ他郡市出寄留トナシ町村ノ外ヨリ來テ住ス者ハ他郡市入寄留トナシテ記入スヘシ
- 第三表華族士族ノ下ヲ棄兒欄男女ノ野ニ斜線ヲ施ス
- 第三表以下表中(區)ハ市(戶長)ハ町村ト改ム

●訓令乙第拾四號 郡市役所、町村役場

陸海軍測量部ニ於テ設置セシ測量標ノ義ハ鄭重ナル方法高尙ナル手續ヲ以テ測定セシキニテ測量上諸種ノ基準點ト相成若シ之ニ變位異動ヲ生ストキハ隨テ其精度ヲ失シ容易ニラサル損害ヲ生スベキニ付已ニ明治廿一年七月第五拾八號勅令ヲ以テ測量規則ヲ細發布相成其取締法ヲモ設ケラレタル事ナリ然ル

ニ縣下人民中ニ於テ其測量標ニ加害セシ者有之趣令般其筋ヨリ照會ノ次第有之不都合不少候條爾

後右等心得違無之様普ク人民へ諭達スヘシ

明治二十二年十一月二十五日

岡山縣知事 千坂 高雅

●訓令乙第拾五號 郡市役所、町村役場

徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期若ハ徵集猶豫中他ノ徵募區ニ轉籍ス者アルトキハ町村長ヨリ郡長ニ届出郡市長ハ其名簿(簿)ヲ添へ轉籍地ノ烏司郡市長ニ通知スヘシ

但失踪逃亡其他ノ事故ニ依リ翌年回ト爲リタル者ニテ他ノ徵募區ニ轉籍ス者ノ取扱ハ亦本文ニ同シ

明治二十二年十一月二十五日

岡山縣知事 千坂 高雅

●訓令乙第拾六號 郡市役所、町村役場

明治二十年^五月當縣遠乙第四拾九號召集事務細則第六書式兵籍表別紙之通改正ス
明治二十二年十一月二十五日
第六書式用紙白美濃紙
岡山縣知事 千坂 高雅

明治何年 某郡(市)兵籍表
十二月一日調

町別	類 別				後 備		通 計
	歸休兵	下士以上 兵員	職工	雜卒	計	計	
何町							
何村							
何町							
何村							

備考	總計	何村
一 第二充員ノトキ召集スヘキヲ總テ何人ナリ		

近衛兵ハ朱字ヲ以テ別記スヘシ○近衛兵ニシテ師團ニ召集スキテ又ハ後備役ニシテ充員ニ召集スヘキ
モアルトキ其人員ヲ備考中ニ掲グヘシ○美濃紙一枚以上連接スルトキハ二ツ折トナシ冊子ニ編成スヘシ

明治二十二年十一月十九日印刷
明治二十二年十一月十九日出版

發行所

備作時事社

岡山縣備前國岡山市大字内山下六番邸

編輯者兼發行者

岡山縣備前國岡山市大字三番町
拾五番邸平民

杉山逸平

岡山縣美作國西々條郡久田村大字
久田上原十三番邸
當時岡山縣備前國岡山市小橋町九十
二番邸士族小野正意方寄留平民

印刷人

牧野敏夫

終

